

## 佳作

### 命の価値

新潟県糸魚川市立糸魚川東中学校

3年 松木 琴理

動物の命は、人間の命とは違うのでしょうか。もう可愛くないから要らない。体が大きくなって飼えなくなったから要らない。人間の一時の感情や諸事情で、年間、約 15,000 匹の犬や猫が殺処分されているのです。

私は小学校 3 年生の時、家で飼えなくなったという人から 1 匹の犬を保護しました。名前はシャネル。チョコレート色の毛がふさふさしていて、とてもかわいいダックスフンドでした。私はその子にたくさんの愛情を注ぎたい、幸せにしてあげたいと思いました。

2 年後、いつもどおり家に帰ると、2 階から走って出迎えてくれるシャネルが来ませんでした。珍しいな、寝ているのかなと部屋を見回しても、どこにもいません。自分の部屋を見に行くと、窓が開いていました。シャネルは不慮の事故で亡くなってしまいました。

その出来事から数週間、私は何も手につかなくなりました。元気に走りまわっていた姿は嘘だったのか。どれだけ泣いてもシャネルは戻ってこない虚しさを、今でもはっきり覚えています。命はこんなにも呆気なく終えてしまうのです。そして、その命がいつなくなるかは、誰にも分からないのです。人間と動物の命の重さに違いはありません。しかし、人間の手によって命を奪われる動物が、世界に何億といます。人間の身勝手な行為を見過ごしてよいのでしょうか。動物が幸せに生きるためには、まず殺処분을なくすべきだと思います。殺処分は「ドリームボックス」と呼ばれる白い箱の中で二酸化炭素ガスを充満させ、窒息死させるやり方です。恐怖と苦痛が伴う地獄の箱です。死を悟って吠える犬や震える猫など、さまざまな反応があります。

動物がボックスの中に入れられると、スイッチが押されます。動物たちは苦しみ、叫びながら死んでいきます。スイッチ一つでどれだけの命が奪われてきたのか、考えるだけで心が痛みます。殺処分にはそれなりの施設が必要です。

「ドリームボックス」のガス代、維持費・管理費、焼却する際の燃料費、人件費等を含めると、1 頭あたりの費用は 2 万円から 7 万円、年間で数億円の税金が使われています。殺処分に使われるお金が税金であることに疑問を感じます。なぜなら、犬や猫を捨てたのは元飼い主であり、動物を救っている人もいるからです。むしろその税金は、動物の保護に使うべきではないでしょうか。動物をどう殺すかではなく、どう助けるかを考えるべきだと思います。

年々、殺処分数は減ってきています。安易な引き取りの申し出を保健所が拒否する等、動物愛護管理法の度重なる改正と整備があったからです。しかし、私は殺処分をゼロにしなければいけない。動物を飼うこと責任を全うできない人は、飼うべきではないと思います。まずは動物の命を守るために、自分に何ができるのか。それを少しでも考えてほしいと思います。

私は現在、犬1匹、猫2匹と一緒に暮らしています。どちらも保護した動物です。犬は、ブリーダーのところで何度も出産をさせられ、使い物にならなくなったからと、保護する人を探していました。私はインターネットでこのことを知り、家族で迎え入れました。鹿児島県のブリーダーだったため、飛行機で何時間もかけて私たち家族の元にやってきました。

このように、インターネットからでも助けられる命があるのです。猫は、保護団体から迎え入れた子と、父が職場で保護した子がいます。どちらも初めて出会った時はガリガリで、骨が浮き出ているほどでした。人間に捨てられたのか、母親に捨てられたのかは分かりませんが、今にも死んでしまいそうな子猫を見て、とても苦しい気持ちになりました。保護団体の方々が一生懸命に看病してくれたお陰で、今ではとても元気に暮らしています。動物を助けるために、ボランティアで活動している保護団体の方々には、感謝の気持ちでいっぱいです。保護団体から動物を保護することや、動物を飼えなくても保護団体にお金を少しでも寄付するなど、今からでもできることはたくさんあります。

私は将来、動物に関わり、苦しんでいる動物を助ける仕事に就きたいと思っています。動物が幸せに生きられる世界をつくるのは、私たち人間です。自分には関係ないからと目をそらさないでください。私たちが動物と共に生きていくためには、私たち人間が動物の一生を背負うという責任感を持つこと、大きな愛情を注いであげることが必要です。どんな理由があっても命を無駄にすることをしてはいけません。動物も人間も持っている命はたった一つ。みんな同じで、かけがえのないものだからです。